

## 令和7年度 学校経営報告書(自己評価)

学校番号	9	学校名	静岡県立伊豆中央高等学校	校長名	川村 陽一
------	---	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組(重点目標はゴシック体で記載)

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	自己肯定感の涵養	①生活リズムが安定している90%※1 朝食摂取率95%※1 自ら行動している80%※1	今年度、朝食摂取率98.8%	A	朝食摂取率は98.8%で目標は達成できた。1.2%の生徒については朝食の重要性を指導し健康管理に努めてもらいたい。
		②挨拶の励行90%※1 規範意識のある生活95%※1 いじめ・体罰0件 生徒による学校生活の見直し	自ら進んで挨拶ができ規範意識の高い生活を送ることができた。	A	自ら進んで挨拶ができる習慣は学校の校風となっている。規範意識のある生活は良好である。いじめ・体罰件数は0件であり、早期発見及び未然防止として、年三回のアンケート実施は大変機能している。
		③連続欠席者への早期対応・支援の強化 相談できる教職員の存在70%※1	信頼できる先生がいると答えた生徒1年61%、2年66%、3年64%	B	担任や学年主任、SCとも協力して生徒への対応を考え。悩みを抱えた生徒や保護者には希望があればSCを紹介し、SCからの助言をもとに丁寧に対応した。
		④行事等実施後の満足度80%※1 友人や周囲への思いやり度90%※1 諸行事への自主的参加90%※1	学校行事が充実していると答えた生徒、1年93%、2年93%、3年94% 信頼できる友人がいると答えた生徒1年99%、2年99%、3年99%	A	多くの生徒が、積極的に学校行事に取り組み満足度も高く充実した学校生活を送ることができている。多様な生徒に対して生徒は互いに認め合い心根が優しい生徒が多く、一人ひとりが思いやりを持ち相手のことを尊重できる。
		⑤部活動との両立ができた生徒80%※1 部活動ガイドラインの遵守100%※3	家庭学習習慣が身につけている80%、部活動に積極的に参加している95%、ガイドラインの厳守100%	A	多くの生徒が部活動との両立はできている。家庭学習習慣の定着として1、2年生の定着率が低いことが懸念される。ガイドラインは厳守できている。
イ	自ら学ぶ力の育成	①授業理解度(わかりやすい)	本校の先生の授業はわかりや	B	全体としては、昨年度59%、今年度62%であった。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
		授業)90%以上 ※1 教職員間での 授業公開と授 業見学の実施 他校の取組の 研究	すいと答えた生 徒1年63%、2 年68%、3年57% 教員間の授業 公開は6月、10 月の強調月間 において全教 員が行った。		職員がICTをどのように活用して いるか情報共有を行ったり、外部 講師を招いて生成AIの活用につ いて研修を行ったりして、分かりや すい授業を行うための職員研修を 実施した。
		②探究の時間 の充実70%※1	1年87.1% 2年82.5%	A	1年生は9月に行った国際交流の 評価が高かった。2年生の一部で はあるが、総合探究の成果を大学 等で発表を行った。参加した生徒 から、「他校の発表を見たり、審査 員の方々からの指摘、助言もらっ たり、とても充実した総合探究にな った。」という意見があった。 総合探究の時間がより充実したも のとなるよう、実施内容について検 討を重ねていく。
		③基礎力テスト (スタディーサポ ート)の活用 到達度テスト(リ クルート)後の配 信課題への取 組80%以上 生徒自らスタ ディサプリの使用 70% 外部模試偏差 値平均52以上	1,2年全員が配 信課題に取り組 んだ。 スタディサプ リのアクティブ率 1年88%、2年 74%、3年45% 11月模試にお ける偏差値平 均は3年45.4、 2年46.5、1年 50	B	年次進行を追っていくと1年では 50以上ある偏差値が学年が上 がるにつれて下がっていく傾向がは っきり見られる。この傾向を食い止 める方策と、この傾向に対応しなが ら進路実現を図る方策の両面から 対策を考えていきたい。 1,2年生はスタディサプ リを活用している生徒の割合が高く、自主学 習のツールとして利用している様 子がうかがえる。 到達度テスト後の課題配信は、学 校が配信しなくても生徒自ら視聴 することが理想であるが、現状は学 校が配信したものだけを見ている 生徒が多い様子である。
		④家庭学習時 間1日平均2時 間以上 自主的な学習 への取組80%以 上※1 放課後等自主 学習の継続	1年平日58m、 休日1h34m、 2年平日 1h04m、休日 1h34m 自主学習への 取組 1年95%、2年 92%	B	勉強したりしなかつたりする日があ ると回答した生徒が40%であり、自 主学習が習慣化している生徒は多 くない。課題があれば、ほとんどの 生徒が家庭学習に取り組んでいる。
ウ	こころざしの育成と全 生徒の進路実現	①自己実現を 考える機会年 間10回以上 (進路講演会、	きらめきフォー ラムに加え、進 路講演会を各 学年1回、オン	A	オンラインを利用しての学部ガイ ダンスを積極的に行い、生徒の進路 意識の向上、視野の拡大に寄与 することができた。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
		きらめきフォーラム、オンライン学部説明会、系統別説明会、希望進路講座、公務員講座、学校薬剤師と語る会等) TGG満足度90%以上※	ライン学部ガイダンス2回、希望進路講座2回、公務員講座1回、その他に3年生を対象とした大学紹介を2回実施し、のべ11回開催 TGG満足度91.2%		TGGは、生徒の満足度も非常に高いため、今後も継続していきたい。
		②オープンキャンパスへの参加80%以上※1 大学進学のための目的が明確になった70%※1	オープンキャンパス参加率は70.2% 大学進学のための目的が明確となったとする生徒は77.2%	B	オープンキャンパス参加率は昨年より低下している。 各種のガイダンス等を通じて刺激を与えることで、大学進学のための目的を考えさせることができた。
		③国公立大学への合格率30%以上	国公立大学の共通テストなし公募推薦は10名が合格	B	国公立大学の共通テストなし公募推薦では昨年度と同じ数の生徒が合格した。 共通テストあり推薦、一般選抜で合格できるようさらにサポートしていきたい。
エ	組織力の強化と業務改善	①分掌・学年会の定期的実施 分掌業務・組織の見直しと適切化 各内規の見直しの実施 ICTを活用した業務改善の推進	昨年度提案した分掌組織の見直しにより、校務分掌等を行った。 NESPCを利用した会議実施によるペーパーレスや、入力による業務改善が行えた。	A	クラス減による教員数減により、先生方にはかなり負担が増加していると思われるが、分掌組織の見直しなどにより軽減がされていると思われる。
		②健診受診率100%※3 ストレスチェック受診率100%※3 夏季休暇の完全取得者100%※3 完全退校時間の遵守 職員の超過勤務時間前年比95%へ削減	ストレスチェック受診率100%、夏季休暇や年休取得は良好。 職員の超過勤務時間前年度比95.5%	B	ストレスチェックによる分析では職場のやりがい度等は良好であった。また、年休等も取得しやすい雰囲気である。 しかし、勤務時間外の超過勤務時間の短縮においては、文化祭体育祭などの行事やテスト作成及び採点業務に加え、部活動の週休日等の引率時間により、なかなか削減できない部分もあり、今後引き続き努力したい。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
		③不祥事0件 不祥事ミニ研修 10回以上 教育公務員として の自覚 100% ※3	教員不祥事ミニ 研修 10回以上	A	県より通達されるコンプライアンス 通信の連絡のみならず、テストや 行事における個人情報を多く取り 扱う場面において、先生方も気を 配っていただいた。
オ	学校・家庭・地域との 連携協力	①ボランティア 等地域活動に 参加する生徒 50%以上※1	ボランティア活 動へ参加した 生徒35名、ボラ ンティア活動延 べ数 47回。	B	(生徒課) 決まった生徒がいくつかのボラン ティア活動に参加しているのが現 状である。全体で参加する機会を 設けても良いのではないかと考え る。
		②保護者が学 校に来る機会 の増加 保護者への進 路情報の提供 保護者が学校 のことを知るよ うになった 70%以 上※2	PTA総会出席 率 1年 51.2%。 2年 32.1%。3 年 47.5%。全体 43.7%。「PTA と後援会と生徒 との懇談会」は 15名の保護者 の出席。	B	PTA総会の出席率は、昨年より少 し下がってしまった。引き続き50% になるよう呼びかけたい。「PTAと 後援会と生徒との懇談会」は、例 年と同じくらいの保護者の出席率 であった。
		③交通事故件 数前年度より減 非行・問題行動 0件	交通事故2件、 非行問題行動1 件	A	交通事故に関しては昨年の4件か ら2件と減少した。問題行動1件、 生徒は概ね落ち着いた生活を送る ことができている。
		④学校説明会 の実施年3回以 上 オープンスク ールの実施年2回 参加者の満足 度 90% 中学生への直 接的な広報の 計画と実施 中学校訪問に よる情報収集と 連携の充実	学校会場にお ける学校説明 会(相談会)3回 及びオープンス クール 2回実施 1日体験入学満 足度(良かった)動画紹介 100%、参加授 業 100% 1年部、運営委 員による中学校 訪問による情報 交換実施	A	一日体験入学では、生徒会が作 成した紹介動画や、フェシリテー ター現役生による中学生対象模擬 授業をおこない、本校の良さを十 分に伝えることができた。 オープンスクール時などの進路相 談会の実施や、各中学校における 学校説明会の参加、また先生方 による在校生の様子や本校を希 望する生徒の状況等情報交換を行 った。
		⑤学校運営協 議会年3回以上 実施 連携事業の検 討	5月、11月は実 施した。1月に 実施する計画 である。	A	運営協議会委員の方々に、学校 の様子を見ていただき、地域や職 種、地域の公共団体の立場から、 本校生徒が期待される資質能力 における御助言をいただいた。
カ	魅力ある学校づくり	①将来構想の 具現化事業開 発・実施	台湾研修の実 施、DXハイスク ールおよび行き たい学校づくり	A	情報活用能力を高める各講座実 施や、夏季休業中の台湾研修実 施、昨年度に引き続き市役所職員 に地域課題解決のプレゼンを行う

様式第3号

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
		事業の実施(2年目)		など、様々な活動を通して資質能力の育成が行うことができた。
	②ホームページ更新回数前年度より増 本校の記事新聞掲載数前年度より増	インスタグラムやデジタルサイネージの更新多数。	A	ホームページの更新により各部活動の結果や、各教科による学習の様子など掲載することができた。 インスタグラムにより生徒の活躍する様子や行事の広報を多々行うことができた。 デジタルサイネージでは、生徒に次週の予定を掲示することや、進路に関する情報を自然に得ることができた。
	③防災訓練年3回実施 緊急時対応の理解度100% ※1※2※3 地域防災訓練参加率の向上	9月地域防災訓練参加率1年15.1%。2年12.1%。3年8.7%。全校11.7%。 12月地域防災訓練参加率1年13.8%。2年6.1%。3年9.3%。全体9.4%。	A	防災訓練については、1学期に地震の防災訓練、2学期に火災の防災訓練、3学期に水害の防災訓練を行った。 地域防災訓練については、9月、12月と2回の参加率を調べたが、昨年度より少し上がった。これは校内の防災訓練時に、地域防災訓練に参加することを呼びかけたためだと考えられる。高校生は地域防災には重要な存在なので、引き続き参加を促したい。
	④適切な会計処理の励行と不祥事根絶 環境整備、危険個所の把握、安全管理等の点検年3回以上 教育環境の改善度90%※1	監査、検査における指摘事項は0件 学校の施設・設備が整備されていると答えた生徒1年51%、2年39%、3年38%	B	(今後も適切な会計処理を継続していく。ほぼ毎日校舎内を巡回し、安全管理を実践した。3階男子トイレ小便器改修工事、防球ネット修繕工事を行った。生徒の教育環境の改善に向け、次年度も県への予算要望を行っていく。
	⑤学校評価アンケート課題解決2項目以上	①保護者あて連絡をスタディサプリにて連絡、②1年生野球応援を希望制に変更	B	学校評価アンケートの回答では、様々なご意見をいただいた。必ずしも可能なことではないですが検討し、より良い学校環境づくりにつなげたいと考えていきたい。
	⑥AI, データサイエンス、プログラミング等を活用して課題解決するプロセスを理解するようになった75%以上	理解するようになった傾向にある生徒は51%だが、普通と回答した生徒を合わせると85%	B	1年生に対して外部講師によるAI講座を実施した。情報Iの授業でのプログラミングが2学期末から3学期にかけてだったことと、総合的な探究の時間における課題解決が3学期からであることから、まだ結果に表れていないと考えられる。

※1は生徒※2は保護者※3は教職員